



藤観音

伊奈 三知夫

光陵会所属

ニュース、情報は下記へ
 社会部
 052-231-1650・5919
 Eメール
 shakai@chunichi.co.jp

一宮総局 千491-0851
 一宮市大江 1-13-13
 0586-72-4545 Fax72-5035
 津島通信局
 0567-28-2157 Fax28-2158
 稲沢通信部
 0587-32-8800 Fax23-8035
 江南通信部
 0587-54-4001 Fax54-9622
 蟹江通信部
 0567-95-3022 Fax95-3000
 春日井支局
 0568-81-2036 Fax81-2797
 犬山通信局
 0568-61-2612 Fax61-2613
 小牧通信局
 0568-72-1177 Fax72-6530

中日新聞へのご意見は
 読者センターへ
 052-221-0800 Fax221-0819
 Eメール
 center@chunichi.co.jp
 掲載写真を購入希望の方は
 最寄りの中日新聞販売店へ

小生自記



一宮市北方小6
 高木 香花さん

わたしの夢は、おじいちゃんのお花屋さんをつつこと。おじいちゃんは最近かわいがっていた猫が死んでしまい、元気がありません。わたしやお客さんにはむりして笑って

学校の★
 イイトッコ
 見つけ!

高さ二十ばほどの大木二本が迎えてくれる。津島市南小学校の東門。「戦前からあるクスノキです」。浅井厚視校長(五)が指さして説明した。

南小 (津島市常盤町)

同市今市場町の延命寺にあった擇善学校と、同市北町の雲居寺にあった春朗学校が前身。いずれも寺子屋の流れをくみ、一八七二(明治五)年に開校した。市内で最も古い小学校だ。現在の常盤町に移ったのは戦前の一九三八(昭和十三年)。その移転時から東門のクスノキ二本はあり、子どもたちと一緒に成長してきたという。

この二本と正門近くの

5本の木「気」の付く命名



クスノキを見つめる児童たち=いずれも津島市南小で

元気、やる気…心に育て

本を加えた三本が十四年前、それぞれ「元気の木」「やる気の木」「根気の木」と名付けられた。人間

教育を進める狙いで、当時の校長と教頭が名付け親だ。十年前には、正門近くと中庭の別の二本が「勇気の木」「本気の木」と命名された。

「木」と「気」をかけた名前は、歴代校長が毎年度のスタートを切る始業式で講話として語り継いでいる。浅井校長は「人間の根本を育てるキャッチフレーズを自然と覚えらるる」と効果を語り、「木を眺めるたびに『五つの気を出して頑張ろう』と思ってもらえれば」と話す。(藤嶋崇)



2本のクスノキの大本が迎えてくれる東門

それぞれの木の名を挙げ、「どれか一つの気を出して頑張ろう」と児童たち呼び掛けるのが恒例だ。これらの木は児童たちにとって思い出たともある。いずれも六年の中村律貴君(三)は「二年ぐらいの時は、勇気の木で『だるまさんが転んだ』をしたり、周りで鬼ごっこをしたりして遊んだ」、大沢真由君(二)も「授業で木の絵を描いた覚えがある」と語る。